慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	清水透 略歴・著作目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2009
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.67 (2009.) ,p.131- 138
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2008年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000067-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2008年度定年退職者略歴・著作目録一覧

清水透　略歴・著作目録

（2009年1月31日現在）

［生年月日］

1943年（昭和18年）7月30日（松本市）

［学歴］

1962年3月　東京外国語大学外国語学部スペイン語学科入学
1966年3月　同学卒業
1966年5月　東京外国語大学大学院外国語学研究研究科ロマンス系言語専攻入学
1968年3月　同研究科 修了（文学修士）
1973年8月　メキシコ大学院大学エル・コレヒオ・デ・メヒコ歴史学博士課程 (Centro de Estudios Historicos, El Colegio de Mexico)入学
1976年7月　同課程　単位取得退学

［職歴］

1968年 4月～ 73 年3月　東京外国語大学外国語学部スペイン語学科助手（スペイン語学）
1973年 4月～ 77 年3月　同学　専任講師（中南米史）
1977年 4月～ 87 年3月　同学　助教授
1979年 4月～ 93 年3月　同学　大学院地域研究研究科担当（ラテンアメリカ歴史文化論）
1987年 4月～ 93 年3月　同学　教授
1992年 4月～ 93 年3月　同学　大学院地域文化研究科博士課程担当教授
1992年11月～ 93 年3月　同学　大学院地域文化研究科長
1992年11月～ 93 年3月　同学　評議員
1993年 4月～ 96 年3月　獨協大学外国語学部教授（比較文化論・スペイン語）
1996年 4月～ 99 年3月　フェリス女学院大学文学部国際文化学科・同大学院担当教授（ラテンアメリカ地域研究・文化変容）
1997年 4月～ 2001 年3月　同学　文学部国際文化学科主任
1997年 4月～ 98 年3月　同学　大学院地域研究コース主任
1997年 4月～ 99 年3月　同学　国際交流学部国際交流学科教授（併任）
1999年 4月～ 2009 年3月　慶應義塾大学経済学部教授（ラテンアメリカ社会史）
2001年 3月～現在　京都ラテンアメリカ研究所客員研究員

なおこの間に，津田塾大学国際関係論学科，学習院大学法学部，茨城大学人文学部，明治大学文学部，国際キリスト教大学社会科学科，一橋大学社会学部，信州大学人文学部，熊本大学文学部，横浜国立大学教育人間科学部，広島大学総合科学部，東京大学大学院人文社会系研究科において，非常勤講師としてラテンアメリカ社会経済論，ラテンアメリカ歴史社会論，ラテンアメリカ史を担当した。

［学会］

1978年～現在　　歴史学研究会会員
1979年～92年　　西日本宗教学会会員
1979年～現在　　日本歴史学協会会員
1980年～現在　　日本ラテンアメリカ学会会員（理事4期）
1982年～現在　　日本西洋史学会会員
1993年～2000年　「宗教と社会」学会会員
2007年～現在　　日本オーラル・ヒストリー学会会員・理事

［役職歴］

1993年7月～2005年5月　「MahoNET-21―骨髄バンクを支える大学・市民ネットワーク」代表
1996年4月～　99 年3月　（財）骨髄移植推進財団普及広報委員
1997年4月～　99 年3月　同 普及広報委員長・企画管理委員
1999年4月～2001年3月　同 企画管理委員・理事
1999年6月～2001年5月　日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

［著作目録］

【編著書】

『コーラを聖なる水に変えた人々―メキシコ・インディオの証言』現代企画室，1984年。（リカルド・ポサスとの共著）
『エル・チチョンの怒り―メキシコにおける近代とアイデンティティ』東京大学出版会，1988年。
Reorganización de las comunidades rurales y su influencia sobre la etnicidad urbana en el complejo cultural iberoamericano, Universidad de Estudios Extranjeros de Tokio, 1992.　（編著）
『「他者」との遭遇』（南北アメリカ史講座第１巻）青木書店，1992年。　（富田虎男との共編著）
『転換期としての現代世界―地域から何がみえるか』国際書院，1993年。　（中嶋嶺雄との共編著）
『グローバル化の時代へ』（フェリス社会人大学講座Ⅰ）国際書院，1999年。　（編著）
『ラテンアメリカ―統合圧力と拡散のエネルギー』大月書店，1999年。　（編著）

【ラテンアメリカ史／歴史学関連　主要論文】

「メキシコ国民経済と経済政策」松村清二郎編『ラテンアメリカの石油と経済―メキシコとベネズエラ』アジア経済研究所，1970年。
「ラテンアメリカの政治的風土」松村清二郎編『ラテンアメリカの石油と経済（続）―ブラジル，アルゼンチンと中小産油国』アジア経済研究所，1970年。

「『制度的革命』と意志決定のメカニズムについて」『海外事情』No. 6, 拓殖大学海外事情研究所，1971年。

Los jesuitas en Sinaloa（シナロアのイエズス会）, (Mimeog.) El Colegio de Mexico, 1976.

「メキシコにおけるキリスト教世界の成立と原住民社会」『南部メキシコ村落におけるカトリック系文化の研究』川島弘文社，1981年。

「メキシコにおけるエスニック・セクト＜メノニータス＞について」『「第三世界」の社会変動と地域研究』東京外国語大学海外事情研究所，1984年。

「コーヒー・プランテーションとインディオ共同体―メキシコ・チアパス高地の労働力移動」『人的移動にともなう都市および農村の変容』東京外国語大学海外事情研究所，1987年。

「共同体と共同意識―インディオ社会を中心に」西川正雄，小谷汪之編『現代歴史学入門』東京大学出版会，1987年。

「インディオ共同体とカシキスモ―チャムーラ社会の事例を中心に」『ラテンアメリカ社会とカシキスモ』東京外国語大学外国語学部，1987年。

「チャムーラの世界と接近の方法」『季刊 iichiko』No. 4, 日本ベリエール・アートセンター，1987年。

「メキシコの民衆宗教」柴田三千雄編『民衆文化』岩波書店，1990年。

「〈内なる荒野〉と都市の〈インディオ化〉―中央アメリカにおける近代と在地の民衆」（1990年度歴史学研究会大会全体会報告）『歴史学研究』11月増刊号 (No. 613)，1990年。

「ゆれうごく都市」文化科学高等研究院・都市文化科学研究センター編『都市・空間・建築の根拠をさぐる』飛島建設開発事業部，1991年。

「対象と理論のはざま」『社会研究』第22号，法政大学大学院社会学専攻委員会，1992年。

“Indigenización de un centro urbano y el concepto de espacio fronterizo: el caso de San Cristóbal de Las Casas, Chis., México” en Toru SHIMIZU (Cood.), *Reorganización de las comunidades rurales y su influencia sobre la etnicidad urbana en el complejo cultural iberoamericano*, Universidad de Estudios Extranjeros de Tokio, 1992.

「都市的秩序の崩壊―メキシコにおける都市の〈インディオ化〉」伊豫谷登士翁・梶田孝道編『外国人労働者論』弘文堂，1992年。

「『発見』―その世界史的意味をさぐる」清水透・富田虎男編『「他者」との遭遇』青木書店，1992年。

「他者の発見・他者の創造」『季刊 iichiko』No.25，日本ベリエール・アート・センター，1992年。

「コロンブスと近代」歴史学研究会編『世界史とは何か』東京大学出版会，1995年。

「ラテンアメリカと三つの場」地理教育研究会編『現代世界をどう教えるか 1999』（地理8月増刊，vol. 44, 通巻526号），古今書院，1999年。

「他者化・自然化をめぐって」西川長夫・原毅彦編『ラテンアメリカからの問いかけ』人文書院，2000年。

「開かれた歴史学へ向けて」保苅実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』お茶の水書房，2004年。

「フィールドワークと歴史学」歴史学研究会編『歴史学研究』2006年2月号 (No. 811)，青木書店，2006年。

「オーラル・ヒストリーの地平」日本学術会議『学術の動向』3月号，2007年。

「離村インディオの流入と都市エスニシティの変容―サン・クリストバル市の事例から」倉沢愛子編『都市下層の生活構造と移動ネットワーク』明石書店，2007年。

「メキシコ・アクテアルにおける虐殺（1997年）」松村高夫・矢野久編『大虐殺の社会史』ミネルヴァ書房，2007年。

「対象へのまなざしとオーラル・ヒストリー」『日本オーラル・ヒストリー・ヒストリー研究』第4号/2008，日本オーラル・ヒストリー学会，2008年。

【ラテンアメリカ史/歴史学関連　学会報告・講演】

「ジェスイットの所有について」西日本宗教学会第12 回学術大会，1980年7月24日。

「ヨーロッパ植民地主義と抵抗の形態」日本西洋史学会第32回大会シンポジウム『近代ヨーロッパとカリブ海地域』1982年5月16日。

「チャムーラ族の社会―共生とアイデンティティーをめぐって」西日本宗教学会第14回学術大会，1982年7月12日。

「チャムーラ族の他者認識について」西日本宗教学会第16回学術大会，1984年7月29日。

「プロテスタントの浸透とエスニシティー―チャムーラの分裂をめぐって」西日本宗教学会第18回学術大会，1986年7月12日。

“El Mundo de los chamulas para mí”, conferencia organizada por la Embajada del Japón en México, 1987年9月14日。

“La situación actual de los estudios de América Latina y su perspectiva como estudios de área”, ponencia dada en el XIV Congreso Internacional de LASA, New Orleans, 1988年3月18日。

「祭りと季節労働の弁証法：チアパス高地原住民社会とプランテーション労働」日本ラテンアメリカ学会第9回定期大会，1988年6月5日。

“Las fiestas comunales y las fincas”, conferencia dada en la Facultad de Economía, Universidad de Chiapas, México, 1989年9月10日。

“Los indios expulsados y el espacio fronterizo”, conferencia dada en el Museo Histórico de San Cristóbal de Las Casas, 1989年9月17日。

「〈内なる荒野〉と都市の〈インディオ化〉―中央アメリカにおける近代と在地の民衆」1990年度歴史学研究会全体会報告，1990年5月26日。

“Indigenizacion de un centro urbano y el concepto de *espacio fronterizo*”, conferencia dada en CIESAS, Cd. de México, 1991年7月13日。

「南北アメリカ史　教育と今―ラテンアメリカ史の場合」第137回アメリカ史研究会，1992年1月18日。

「ラテンアメリカ史における otredad（他者性）と autoridad（著者性）をめぐって」日本ラテンアメリカ学会シンポジウム『ラテンアメリカの500年』，1992年6月7日。

“Indigenización de un centro urbano y el concepto de *espacio fronterizo*: El caso de San Cristóbal de Las Casas, Chis., México”, ponencia dada en Graduate School of International Relations and Pacific Studies, UC, San Diego，1992年11月12日。

「ラテンアメリカ史から」 歴史学研究会創立60周年記念シンポジウム『いま，なぜ歴史学か』（池亨・石井寛治・岸本美緒・倉持俊一・林玲子・三木亘・宮田節子・清水透・司会：西川正雄），1992年12月5日。

「インディオ村落へのプロテスタントの拡大と都市のインディオ化」「宗教と社会」学会第 1 回学術大

会，1993年6月26日。
「フィールド派歴史学の可能性」ドイツ現代史学会第26回大会特別講演，2003年9月22日。
「歴史学とさまざまな〈歴史実践〉―フィールドワークに新たな歴史叙述の可能性を求めて」歴史学研究会シンポジウム『方法としての「オーラル・ヒストリー」再考』（桜井厚・清水透・大門正），2005年4月3日。
「歴史へのまなざしとオーラル・ヒストリー」日本オーラル・ヒストリー学会第5回大会シンポジウム『オーラリティとは何か』（佐藤健二・橋本裕之・清水透・成田龍一），2007年9月16日。
「オーラル・ヒストリーと〈和解〉」日本オーラル・ヒストリー学会第6回シンポジウム（狐崎知巳・蘭信三・好井裕明・清水透），2008年10月12日。
「〈他者〉から世界史を問う」戦後派研究会報告，2008年8月20日。

【評論・時評・対談・討論】
「ラテン・アメリカにおける経済統合の停滞」『国際年報69年版』国際問題研究所，1973年。
「苦悩するチリ人民連合政権」『週刊エコノミスト』毎日新聞社，1973年5月。
「思想と潮流：ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』」『朝日ジャーナル』vol. 18, No. 47, 1976年11月。
「インディオの復権 (1)–(6)」『ＮＨＫラジオ・スペイン語講座テキスト』4–9月号，日本放送出版協会，1978年4月～9月。
「メキシコ文化の担い手―インディオとヨーロッパの融合」『朝日新聞』夕刊，1978年10月31日。
「メキシコ社会の特質」『国際エネルギー情勢の急転に伴う日墨協力関係促進基礎調報告書』アジア経済研究所，1981年。
「〈つり合わない軛〉に抗する人々―メキシコの２集団と生活を共にして」『毎日新聞』夕刊文化欄，1983年12月26日。
「インディオ部落で考える」江口朴郎他監修『〈南〉からみた世界』大月書店，1984年。
「ラテンアメリカ文学“ブーム”の歪み」『新日本文学』No. 451, 1985年4月。
「私の訳した本」『翻訳の世界』4月号，1985年。
「インディオ庶民史足で書く」『日本経済新聞』朝刊文化欄，1987年1月20日。
「特集　オーラル・ヒストリー―その意味と方法と現在」『歴史学研究』6月号 (No. 568)，1987年。
「わが村の遠来の守護神」『住商ニュース』93号，住友商事株式会社，1987年11月。
「海の底から空は見えるか」『UP』No. 197，東京大学出版会，1989年3月。
「なぜいま地域研究か?〈討論〉」中嶋嶺雄・チャルマーズ・ジョンソン編『地域研究の現在―既成の学問への挑戦』大修館書店，1989年。
「フィールド・ワークの文化理論」『季刊 iichiko』No. 16, 日本ベリエール・アート・センター，1990年7月。
「中南米」山内昌之・民族問題研究会編『入門　世界の民族問題』日本経済新聞社，1991年。
「EC統合をめぐって予測される差別の組み替え」『朝日ジャーナル』Vol. 33, No. 40（臨時増刊号），朝日新聞社，1991年10月。
「メノナイトよ，お前もか」『国際文化学会会報』第5号，フェリス女学院大学国際文化学会，1996年12

月。
「座談会　ラテンアメリカの20世紀―戦争と革命の時代から新しい社会へ／武者小路公秀・清水透・後藤政子」『神奈川大学評論』第33号，1999年7月。
「七年ぶりの村」『三色旗』第625号，2000年4月。
「行人と渡し舟」『三田評論』No. 1043，慶應義塾大学, 2002年2月。
「フィールドワーク覚え書き」『ラテンアメリカレポート』vol. 19, no. 1，アジア経済研究所，2002年5月。
「討論会　戦後歴史学を検証する（二）地域と民族」（村井章介・清水透・板垣雄三・栗田禎子・小谷汪之・小沢弘明）歴史学研究会編『戦後歴史学を検証する―歴研創立70周年記念』青木書店，2002年。
「知的いとなみと対象―歴史学の新たな手法をめぐって」東京大学大学院人文社会系研究科『多分野交流プロジェクト研究ニューズレター』vol. 44，2003年12月。
「フィールドワークと歴史学」『戦後派研究会会報』No. 1，2005年11月。
「〈ジェンダーの視点〉は絶対か」『戦後派研究会会報』No. 2，2006年1月。
「チャパスからの通信」『戦後派研究会会報』No. 3，2006年4月。
「見える世界・見えない世界―小谷批判へのコメント―」『戦後派研究会会報』No. 2，2006年1月。
「富永氏の反論へのコメント」『戦後派研会報』No. 5，2006年8月。
「〈知〉と対象について」『戦後派研究会会報』No. 7，2006年11月。
「矢野批判に応えて」『オーラル・ヒストリーの現在と課題』（文部省大学院高度化推進特別経費2006年度報告書），2007年5月。
「おばあちゃんの皺：Las arrugas de una ancianita」『メキシコ・チアパスまつりII』エキジビション・スペース，2007年10月。
「マヤのインディオ，チャムーラの知恵：La sabiduría del pueblo Chamula, grupo indígena de origen maya」『メキシコ・チアパスまつりIII』エキジビション・スペース，2008年12月。
「21世紀世界の〈課題〉，あるいは＜展望＞について，考える」『戦後派研究会会報』No. 18，2008年12月。

【訳書】

セルソ・フルタード『ラテンアメリカの経済発展』新世界社，1972年。　（水野一との共訳）
加茂雄三編訳『キューバ革命』（ドキュメント現代史11）平凡社，1973年。　（共訳）
スタンレー・R・ロス『メキシコ革命は死んだか』新世界社，1977年。　（中川文雄との共訳）
R・メジャフェ『ラテンアメリカと奴隷制』岩波書店，1979年。
アマリア・ロペス他『メキシコ―その人々の歴史』（世界の歴史教科書シリーズNo.26）帝国書院，1982年。　（共訳）
G. ボンフィル・バターヤ『アメリカにおける「インディオ」の概念』東京外国語大学海外事情研究所，1985年。

［書評］

「T・キング著『メキシコ―1940年以降の工業化と貿易政策』(Timothy King, Mexico: *Industrialization and Trade Policies since 1940*, London, Oxford University Press, 1970)」『アジア経済』第12巻第

4号，1971年4月。
「書評　エル・コレヒオ・デ・メヒコ編『メキシコの歴史』新潮社，1978年」『歴史学研究』No. 466，1979年3月。
「私と〈本〉―黒沼ユリ子『メキシコからの手紙』」『総合教育技術』1月号，小学館，1981年。
「ロベール・ジョラン著（和田信明訳）『白い平和』現代企画室，1985年」『東京新聞』朝刊，1985年6月28日。
「大久保教宏『プロテスタンティズムとメキシコ革命―市民宗教からインディヘニスモへ』新教出版社，2005年」『日本ラテンアメリカ学会会報』2008年3月。

【その他】

『平凡社大百科事典』「通商院」「コンスラード」「カラカス会社」「カスタ戦争」「コムネスの反乱」「奴隷」「シマロン」「キロンボ」「ラテン・アメリカ経済」「トマス・ゲージ」「エルナンデス」の各項目，1984年。
岩波『世界史史料集7　南北アメリカ　先住民の世界から19世紀まで』「カトリック教会と先住民」「植民地の都市空間」「放浪者に対する法規制」「スペイン植民地と情報の流出」「独立直前のメキシコとアメリカ合衆国」「ボリーバルの人種観」の各項目，岩波書店，2008年。
高校世界史検定教科書『詳解　世界史』（共著）三省堂，1988年。
『詳解　世界史B』（共著）三省堂，1995年。
語学テキスト『NHKラジオ・スペイン語講座テキスト（応用編）』1–3月号。日本放送出版協会，1978年。
『NHKテレビ・スペイン語講座テキスト』4–9月号。日本放送出版協会，1979年。
童話絵本　エンリケ・マルチネス作『どうぶつたちのおまつり』』（訳書・童話絵本）講談社，1992年。
マルタ・アビレス作『図書館だいすき』（訳書・童話絵本）蝸牛社，1996年。

【医療/生命倫理関連　論文・学会報告・エッセー】

パネル『アジア太平洋骨髄バンクフォーラム』骨髄移植推進財団主催（兵庫県立先端科学技術支援センター）1997年10月5日。
「先進医療とボランティア」第20回日本造血細胞移植学会公開シンポジウム報告，1997年12月20日。
「骨髄移植と骨髄バンク」加藤祐子『私の運命』出版芸術社，2000年。
「ひまわりいろの種」佐藤律子編『種まく子供たち―小児ガンを体験した七人の物語』ポプラ社，2001年。
「移植医療とボランティア―医師と患者のはざまから」『臨床医』vol. 27, no. 2，中外医学社，2001年。
「被験者としての患者・ドナーと新規治療法の開発―元患者家族の立場から」第49回日本輸血学会総会シンポジウム『小児輸血療法の倫理』報告，2001年5月31日。
「移植医療と医の倫理―患者の救命と他者の命」現代医療を考える会編『20世紀の検証と現代―医師・医学者の戦争責任への認識と克服』2001年。
「家族と記憶」慶應義塾大学経済学部編『家族へのまなざし』弘文堂，2001年。
「授かりものの命・預かりものの命」『子どもといのちの教育研究会第4回研究大会』ラウンドテーブル

（清水透・金光一彦・吉廣恵・大宮美智枝）2002年1月26日。
「現代医療と他者の命の物象化」『三田学会雑誌』94巻4号，2002年。
「患者・家族・いのち」『子どもといのちの教育研究会ワークショップ (DES)』報告，2002年5月18日。
「南北問題と現代医療―患者家族から見えるもの」教育科学研究会『平和，人権と教育』部会報告，2002年8月11日。
「どうにかなるから」『母のひろば』童心社，2002年9月。
「こころの片手間」近藤卓編『いのちの教育』実業之日本社，2003年。
「造血幹細胞移植と生命倫理」「人体利用等にかんする生命倫理基本法」研究プロジェクト主催『第2回臓器移植法ワークショップイン金沢―臓器移植法の問題点を探り出す』報告，2003年6月1日。
「PBSCTと医の倫理」厚生労働省がん研究助成金事業「非血縁者間の造血幹細胞移植による悪性腫瘍の治癒率の向上に関する研究」班（原田実根班長）班会議《２．パネルディスカッション》『骨髄移植と末梢血幹細胞移植健常ドナーからの採取の安全性，および治療効果をいかに評価するか』報告，2003年6月13日。
「新規治療法の導入と医の倫理―PBSCTの非血縁者適用の可否をめぐって」厚生労働省臓器移植対策室講演，2004年9月29日。
「現代医療における患者・家族・ドナーをめぐる問題点」社会思想史学会シンポジウム『「人間」概念の変容と生命倫理』（島薗進・清水透・阿部知子・高草木光一），2006年10月22日。
「臓器提供と本人意思―「意志」はどのように形成されるか：骨髄移植財団の活動から」『衆議院臓器移植法改正を考える会』講演，2007年2月15日。
「＜いのち＞がみえる」『ぶどうのいえだより』No. 50, 2008夏号，2008年8月。

この他，全国の小中高，大学，市民団体を対象に，1993年～2004年の間，医療といのちにかかわる66回の講演活動を実施。1999年～2001年には骨髄移植をめぐる友情物語「舞台友情」の上演活動に携わる。

平野敏政　略歴・著作目録

（平成21年1月31日現在）

［生年月日］
昭和18 年8 月28 日

［学歴］
1967年3月　　慶應義塾大学　文学部卒業
1970年3月　　慶應義塾大学　大学院社会学研究科修士課程修了
1973年3月　　慶應義塾大学　大学院社会学研究科博士課程単位取得退学